GIFU

No.38
平成19年3月発行

分布図情報

岐阜県図書館
世界分布図センター

改正地球萬国全図

長久保赤水 作　1785（天明５）年　101×156cm　木版手彩色

明末清初に中国に在留したイエズス会士によって作られた世界図は、近世初頭の日本人の世界像に大きな影響を与えた。このうち最も大きな影響を与えたのは、イタリア生まれの宣教師マテオ・リッチが、1602（慶長７）年に北京で刊行した木版刷りの「坤輿（こんよ）万国全図」である。江戸時代には、わが国でも早くから世界図が作られたが、そのほとんどが「坤輿（こんよ）万国全図」を倣った楕円形の世界図である。なかでも1785（天明５）年頃に刊行された水戸藩の儒者長久保赤水（ながくぼせきすい）（1717～1801）の「地球万国全図」はその代表的なもので、赤水の名声とともに広く普及し、後々まで模刻された。

（岐阜県図書館蔵）

収蔵資料展示の紹介

「地図で見る日本の町並みⅡ ～歴史が生きる景観～」

【4月1日（土）～5月25日（木）】

■収蔵資料展示について

岐阜県図書館に併設されている世界分布図センターは、全国唯一の「県立の地図の資料館」で、児童生徒の学習から専門家の学術研究まで幅広い活動を支援するため、「古地図（資料的価値の高い現在発行されていない地図）」、「国土地理院関係地図」、「旧ソ連製地図（旧ソ連が作製した東欧・アジア・アフリカ諸国の地図）」、「外邦図（旧日本軍が作製した国外の地図）」を４本柱に、世界約180余の国と地域の地図とその関連資料14万点を収蔵しています。

こうした収蔵内容の一端を皆様に知っていただこうと、館内外で計画的に地図展を開催しています。

■重伝建地区と展示の概要について

わが国には、城下町、宿場町、門前町など歴史的な集落や町並みが全国各地に残されています。これらの多くは、地域住民や行政による様々な取り組みや努力によって守られてきたものです。中でも、「重要伝統的建造物群保存地区」（以下「重伝建地区」）は、市町村が定めた伝統的建造物群保存地区の中から、価値が高い保存地区として国が選定したものです（平成19年1月1日現在で38都道府県68市町村79地区）。

昨年度、これら「重伝建地区」のうち、岐阜県内にあるすべての「重伝建地区」（高山市［２地区］・美濃市・恵那市［旧岩村町］・白川村）と、県外では金沢・萩などを取り上げ、様々な種類の地図で紹介しました。

第２回目の今年度は、観光地としても全国的に有名な函館、京都、神戸、長崎にある「重伝建地区」を紹介しました。

■展示資料について

「重伝建地区」は、関係市町村が観光用にその地区を紹介するための親しみやすいイラストマップや、写真付きの解説等を作製しています。展示では、関係市町村から収集したこれらの地図を、実際に町並みを観光しているような気分でお楽しみいただけるように、各地区ごとに紹介しました。

展示の様子（京都のコーナー）

また、現在の町並みとの比較もできるように、「重伝建地区」のある町が描かれた江戸時代や明治時代の古地図も展示しました。

■展示資料の紹介（函館のコーナー）

函館市が作製した「函館の歴史的町並み」のパンフレット

「函館全図」/1860（万延元）年刊

開港間もない函館が、広域図、市街図、鳥瞰図と、３種類の方法で描かれています。

収蔵資料展示の紹介

飛騨美濃合併130周年記念展示

「古地図でたどる美濃と飛騨」

【7月29日(土)～10月29日(日)】

■古地図とその魅力について

現在発行されていない資料的価値の高い古地図(こちず)は、地理的情報に加えて、歴史的情報を提供する貴重な資料となっています。古地図には、文字にすれば多数の紙面を要する情報が一枚の紙に納まっているので、見るほどにその意図や背景が分かり、味わいが深まります。また、眺めるだけでも、現在の地図と違う独特の表現方法や色の使い方などを楽しめます。

■展示の概要について

現在の岐阜県は、今から130年前の1876（明治9）年8月21日、地理的環境とともに歴史的な歩みも異にした美濃と飛騨とが合併して誕生しました。

展示では、合併130周年の節目を記念し、郷土の歴史や文化等についての理解や愛着を深めていただくとともに、古地図独特の表現や美術的魅力も併せて楽しんでいただけるように、郷土の歩みを江戸から明治にかけて作製された古地図でたどり紹介しました。

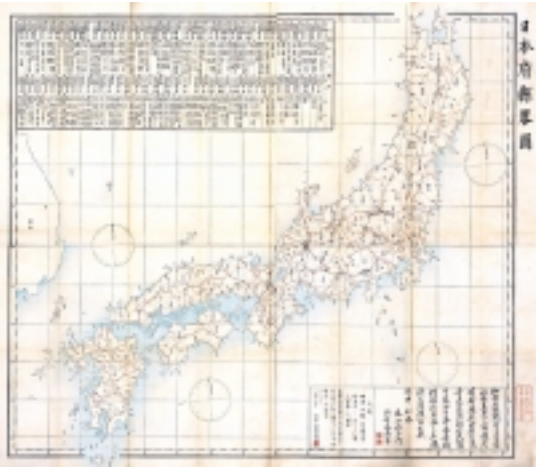
展　示　の　様　子

■展示の構成と概要について

江戸時代（「幕藩体制下の美濃と飛騨」）と明治維新後（「『岐阜県』の誕生」）の２部構成とし、当館が収蔵する古地図56点を展示しました。

展示した古地図は日本図や国絵図（旧国単位の絵図）、道中図（旅のガイドマップ）、名所旧跡図、河川図などで、これらに描かれた郷土の街道や河川、名所旧跡を紹介しました。また、明治期に作製された高山県や筑摩県、新生岐阜県の地図等も展示・紹介しました。

■展示資料の紹介



「日本府縣略図」／1872（明治5）年　刊

この図が作製された前年の1871（明治４）年に廃藩置県が実施され、全国は3府72県となりました。本図にはその直後の情報がいち早く掲載されています。岐阜県は美濃一国で、飛騨の三郡は高山県を廃止して、信濃四郡と筑摩(ちくま)県を形成しています。

「岐阜縣管内地図」／1880（明治13）年　刊

本図は1876（明治9）年8月21日に筑摩県が廃止され飛騨が岐阜県に編入された4年後の1880（明治13）年5月に岐阜県が発行した20万分1の管内地図です。美濃・飛騨を併せた県別地図としては最も古く、近代の県行政を進める基本図として用いられました。

第12回 児童生徒地図作品展

作品づくりを通して、地図に興味や関心を持ち、生活の中で使いこなす力を高めることを願って始まった児童生徒地図作品展は、今年度で12回目を迎えました。

今回は、県内の小・中・高等学校から321点の応募がありました。力作揃いの作品の中から15点の入賞作品、45点の入選作品が決定しました。

子どもたちの地図作品の魅力

（1）子ども自らが見つけ出したテーマ

学校や家庭、地域社会などの中で、子どもたちが出会った問題や発見したことなどが、作品のテーマとなっています。子どもたち一人一人の「もっと詳しく調べたい！」「発見したことを地図に表現したい！」「みんなに知らせたい！」という素直な気持ちが、作品に表されています。

岐阜県教育長賞3作品

「大図解おじいちゃんのキノコ山」
下呂市立下原小学校　4年　中村　美月

「心のかけはし　橋しらべ」
岐阜市立本荘小学校　5年　近藤　寛人

「ぼくの家にとどいたこうこくマップ」
岐阜市立鷺山小学校　3年　竹中　茂也

岐阜県知事賞

「グリーンマップ　～岐阜市の保存樹をたずねて～」
岐阜市立三輪南小学校　5年　小西　はなの

（2）あたたかさやぬくもりを感じる地図

子どもたちが、自分の力を精一杯出して創り出した地図には、あたたかさを感じます。

地図づくりへの取り組み方は、子どもたち一人一人、様々です。資料の収集の仕方や地図表現の工夫、地図づくりを通して得た気づきなどを子どもたちなりにまとめた地図は、見る人の心をひきつけます。

中には、家族と一緒に調査したり、絵や文に表現したりと、多くの大人も巻き込んでつくられた地図もあります。

作品展に応募された地図からは、分析されたデータの情報を得るといったことに加え、作製者やその作製にかかわった人々のぬくもりを感じることもできます。

国土地理院長賞

「食品はどこからくるの？」
土岐市立妻木小学校　3年　仙石　実優

日本地図センター理事長賞

「合併レポート」
御嵩町立向陽中学校　2年　堀江　真由

日本地理学会 会長賞

「岐阜市内の長良川の渡し」
岐阜市立鏡島小学校　3年　岩田　拓也

（3）地図づくりによって得られるもの

地図づくりを行う中で一番苦労するのは、「自分の決めたテーマをいかに分かりやすく表現するか」という点です。この時に、自分のテーマにじっくりと向き合い、そのテーマの意味に迫ることになります。このことが、地域や社会を見つめ、自分とのかかわりを考えるよい機会となります。

岐阜地理学会 会長賞

「関市地域　防災マップ」
関市立緑ヶ丘中学校
3年　粕谷　崇史

岐阜県図書館長賞

「たべものしらべ」
岐阜市立本郷小学校　1年　大西　愛結
「ローカル線観光（ＪＲ太多線の旅）」
多治見市立南姫小学校　3年　古田さくら
「Let's防犯!! ～附女子よ社会の闇に立ち向かえ!!～」
岐阜大学教育学部附属中学校　2年　尾関　美有

奨　励　賞

「ぼくの町　とび出し絵地図」
岐阜市立長森南小学校　2年　伊藤　大登
「わたしたちの地いきにべんりな西ほら川のひみつ」
山県市立西武芸小学校　3年　奥田　千尋
「まちをきれいにしよう！」
岐阜大学教育学部附属小学校　養護4年　中村　真也
「日本一暑い町多治見 ～高温の地形的要因を探る～」
岐阜県立多治見北高等学校1年　大山二朗　水野佑樹

60点の作品は、10月31日（火）から12月28日（木）まで、世界分布図センターで展示されましたが、御家族連れで、楽しみながら鑑賞されている姿が印象的でした。来年度も、素晴らしい地図作品の応募が多数あることを期待しております。

ただ今、入賞・入選作品60点の写真を収めた記録集を配布しています。ご希望の方は、世界分布図センターまでご連絡ください。また、ホームページでは、入賞した15点の作品の写真を紹介しています。

http://www.library.pref.gifu.jp/map/index.html

事業報告

地図講演会
『「日本」号の成立と「日本図」－自画像と他者像－』

国際日本文化研究センター　**千田　稔教授**

７月15日（土）、歴史地理学がご専門で、国際日本文化研究センターの千田稔教授より『「日本」号の成立と「日本図」－自画像と他者像－』と題してご講演いただきました。

講演は国号「日本」の成立という興味深いテーマから始まり、その成立が７世紀末と推定されるとした上で、明代まで中国が作製する地図には他者像としての日本を地図化することに関心がなかったことが紹介されました。次に、日本人が描く自画像としての「日本図」（いわゆる「行基図」）も自国の描写のみ追求していたことに対し、朝鮮半島（李氏朝鮮）では外交上の背景もあって、精密な東アジア図を作製していたという対比をお話しいただきました。

また、称名寺所蔵（金沢文庫保管）日本図や拾芥抄大日本国図、南贍部州大日本国正統図などの「行基図」資料を用いながら、「行基図」の原図は奈良時代に遡れるという説や「行基図」は蒙古襲来当時の神国の表現体として読めること、あるいは「大日本国図」は「大日如来の本国の図」という密教的な世界で解釈できることなど地図学史の面白さを解説されました。

さらに、西洋から見た他者像としての日本は16世紀までは不正確な形でしか表されなかったが、キリスト教の伝播を契機に、日本の海岸線に注意が向けられた地図が作製され、17世紀のブラウの世界図で比較的正確に表現されたこと、伊能忠敬もこの西洋諸国で作製された地図の存在を知らなかったはずはないであろうということで講演を閉じられました。

今回、地図に描かれている情報だけではなく、地図作製当時の時代背景や意図などにも目を向ける、地図の見方・読み方を各種の地図画像を織り交ぜながらご教示いただきました。

講師の千田稔先生

夏休みわくわく地図教室
「地図づくり　楽しかったよ！」

地図研究家　**渡辺一夫先生**

７月26日（水）27日（木）、講師に地図研究家の渡辺一夫先生をお招きし、「わくわく地図教室」を開催しました。

26日の低学年の部では、先生の家から図書館までの道のりについて映像を交えながら勉強し、地図で確認していきました。その後、自分の家までの簡単な地図を描いたり、ＰＣで地図作製ソフトを扱ったりと、楽しみながら地図づくりの基本を学んでいきました。

27日の高学年・中学生の部では、先生が取材された国々の様子を、映像を交えながら学び、地球儀で確認していきました。その後、伊能忠敬のように、歩測で地図をつくる活動を行いました。方位磁石を手にし、自分の進む方向を確かめながら図書館内を歩き、地図化していきました。

また、次のような感想も、子どもたちから寄せられました。「にょろにょろ地図をかくのがたのしかったです。パソコンで地図をかくのもたのしかった。」「いえまでの地図をかいたけど、じぶんですきなようにかけたのでたのしかった。」「日本地図や地球ぎを見ていると、知らない場所を旅している気持ちになるので、楽しかった。」

この教室には、小学校１年生から中学３年生という、幅広い年齢の子どもたちが参加しました。どの子も熱心に活動し、新しいことを知る楽しさ、喜びを味わい、地図が大好きになったようです。

平成18年度　事業報告

世界分布図センターでは広く県民の皆様にご理解をいただきますよう、分布図・地図に関して、次のような事業を実施しました。

（１）収蔵資料の展示

世界分布図センターが収集した分布図・地図を展示し、多種多様な種類の地図類があることを紹介するとともに、地図類の持つ様々な情報を提供いたしました。

（館内展示）　岐阜県図書館２階　世界分布図センター　展示コーナー

第１回	「地図で見る日本の町並みⅡ－歴史が生きる景観－」	4月 1日～ 5月26日
第２回	地図の日記念展示「伊能図の後裔－伊能図をもとにした幕末・明治の地図－」	4月15日～５月 7日
第３回	「外邦図で見る戦前のアジアと世界Ⅲ－東南アジア－」	5月27日～７月27日
第４回	飛騨美濃合併130周年記念展示「古地図でたどる美濃と飛騨」	8月27日～10月27日
第５回	「第12回児童生徒地図作品展」	10月31日～12月28日
第６回	「古地図の世界－道中図－」	平成19年 1月27日～３月29日

（館外展示）

・瑞浪市民図書館	「地図と防災－ハザードマップで知る災害対策－」	6月 8日～ 7月 3日
・可児市立図書館	「ハザードマップで見る岐阜・日本」	7月 8日～ 7月24日
・郡上市しろとり図書館	「江戸切絵図でたどる時代小説」	9月 1日～ 9月30日
・郡上市はちまん図書館	「江戸切絵図でたどる時代小説」	10月 1日～10月31日
・美濃加茂市中央図書館	「江戸切絵図でたどる時代小説」	11月 7日～11月25日
・安八町生涯学習センター	ハートピア安八 「地図と防災－ハザードマップで知る災害対策－」	11月 7日～11月30日
・岐阜県博物館	「古地図の世界Ⅵ－名所旧跡図－」	平成19年 2月17日～ 3月21日

（２）地図講演会　　７月15日（土）　（６ページ）

（３）夏休みわくわく地図教室　　７月26日（水）、27日（木）　（６ページ）

（４）第12回児童生徒地図作品展　（４，５ページ）

出品期間：８月30日（水）～９月10日（日）

審　　査：１次９月25日（月）　２次10月10日（火）　表彰式11月19日（日）

（５）地図講座　　岐阜県図書館２階　研修室　（受講者　延べ51名）

第１回	「地形図とは」「各務原台地の開発」「加子母の林産資源」	中部学院大学　今井春昭　先生	8月 5日（土）
第２回	「丘陵地の開発と実態」「阿寺断層と断層地形」	白川高等学校　原　賢仁　先生	8月19日（土）
第３回	「輪中地域の変容」「扇状地の地下水と湧水」	華陽フロンティア高等学校　安田　守　先生	8月26日（土）

ふるさと地形ウォッチング

高山市街地の拡大

高山市は昭和11（1936）年、高山町と大名田町が合併して市制が施行され、同18（1943）年上枝村、同30（1955）年大八賀村を合併した。平成17（2005）年に９町村を合併したことで人口約96,000人、面積2,179km²の日本一面積の大きい都市となったが、ここで取り扱う地域は、旧高山市についてである。

第１図は、大正2（1913）年発行の地形図で、市街地は宮川を挟む地域に広がっている。この高山市街地の基盤が形成されたのは、金森氏が、松倉・鍋山の城下町を移転して、江名子川と宮川に囲まれた平坦地に新城下町を建設してからである。

城下町は、宮川右岸から東へ町人地、武家地、寺社地に分けられていた。この地区を中心に行政が行われていたため、昭和にはいっても、市役所・裁判所・警察署・郵便局などがこの地域に分布している。近年観光客が訪れている町屋敷は、東から一之町・二之町・三之町と呼ばれる整然とつくられた南北の町筋で、当時の町並みが現在まで保存されている場所である。（この三町筋は、昭和54（1979）年に国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。）

昭和9（1934）年、国鉄高山線が開通し、高山駅が建設されたことで、市域が西へ拡大した。

高山駅の南付近の地域を昭和町（昭和17年に命名）と呼ばれるようになったり、小学校と中学校が駅の西に建設されたりしている。

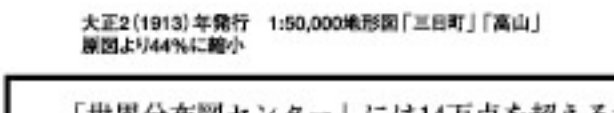
第２図は、平成7（1995）年発行の地形図で、中山丘陵東を通る国道41号線のバイパス道路が開通している。このバイパスは、昭和47（1972）年に開通したが、この道路によって、高山市街地がさらに西進した。バイパス沿いに官公庁・飛騨総合庁舎が建設され、また桐生町に卸売り団地、緑ヶ丘・上岡本・中山町に住宅団地、匠ヶ丘町に工業団地がつくられた。近年、駐車場を備えた商業施設も進出している。

また、高山市役所は平成11（1999）年に高山駅近くに新庁舎が完成し、移転している。高山駅近くにあった２つの高等学校がバイパスの西の中山丘陵地域に移転し、新しく短期大学も設立された。さらに、市営陸上競技場・野球場・テニスコート・ビッグアリーナ（体育館・武道場等総合施設）などスポーツ施設が、この丘陵地域に建設されている。

このように旧高山市街地は、昭和から平成にかけて、宮川を挟む地域から漸次西へ西へと広がりを見せてきた。今後、平成の合併による市域の拡大、高速道路延伸などの要因によって市街地がどのようにデザインされていくのか興味深い。

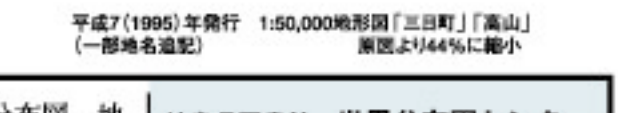
【参考文献】「地図で読む岐阜」古今書院　1999
「角川日本地名辞典21　岐阜県」角川書店　1991

第１図



大正2（1913）年発行　1:50,000地形図「三日町」「高山」
原図より44%に縮小

第２図



平成7（1995）年発行　1:50,000地形図「三日町」「高山」
（一部地名追記）　原図より44%に縮小

「世界分布図センター」には14万点を超える地図・分布図、地図関係図書があります。
また、コンピュータ及びＧＩＳソフトを使ってオリジナルな地図・分布図を作製、印刷することが出来ます。
学習や調査研究、国内外の旅行の準備などお気軽にご利用ください。

岐阜県図書館　世界分布図センター
〒500-8368　岐阜市宇佐４－２－１
TEL（058）275－5111（内線286）
FAX（058）275－5115
URL　http://www.library.pref.gifu.jp/map/
E-mail　mapstaff@library.pref.gifu.jp

R100 古紙配合率100%
白色度80%の再生紙を使用しています。